

東京都新宿区崇源寺跡より出土した木棺材の樹種と年輪からみた 17-19 世紀の江戸における木材利用の変遷
Transition of timber usage in 17-19th century deduced from materials of coffin boards at Sugen-ji graveyard site, Tokyo

鈴木 伸哉^{1*}, 星野安治², 大山幹成³, 能城修一⁴

Shinya Suzuki^{1*}, HOSHINO, Yasuharu², OHYAMA, Motonari³, NOSHIRO, Shuichi⁴

¹ 日本学術振興会特別研究員・首都大学東京, ² 奈良文化財研究所, ³ 東北大学植物園, ⁴ 森林総合研究所

¹JSPS: Tokyo Metropolitan University, ²NRICP Nara, ³Botanical Gardens, Tohoku University, ⁴FFPRI

近世の本州や四国、九州における森林資源は、17世紀の都市開発にともなう天然林の乱伐やそれに起因する資源枯渇、伐木制限から、18世紀以降に本格化した植林や森林の保全を伴った生産へと、大きく変化したことが知られているが、消費の様相については文献史料に乏しく、明らかでない部分が多い。一方、東京都内を中心とする都市遺跡から出土する多量の木製品は、当時の木材消費の直接的な証拠であり、そこに含まれる豊富な情報をもとに木材利用の歴史を復原することが可能である。この度、東京都新宿区崇源寺跡から江戸時代の埋葬施設群が発掘されたため、そこから出土した木棺材の樹種同定と年輪計測をおこなうことで、使用された木材の樹種と、その樹齢や生育環境を視野に入れた近世の都市における木材利用の変遷について検討した。また、得られた多数の年輪データの年輪年代学的検討に基づき、木材の生育年代や利用された年代について明らかにし、これらの情報に基づいて 17-19 世紀の木材利用の様相を復原することを試みた。

本研究には日本学術振興会科学研究費補助金（課題番号 23・5811, 23240116）の一部を用いた。

キーワード: 年輪年代学, 江戸, 木材利用, 木棺, 樹種

Keywords: Tree-ring dating, Edo, timber usage, coffin, wood species